

九州八十八湯めぐり

修行者の心得

九州
八十八湯
めぐり

九州温泉道

一 無銭入浴の禁止

入湯修行者は、入湯の際にきめられた入湯料を払うこと。たとえ無人の施設でも、決して不正をせずにきめられた入湯料を払うこと。

二 入浴マナーを守る

入湯修行者は、温泉に入る前に自分の秘所を中心に充分にかけ湯をし、心身を洗い清めること。多くの人が入る湯であることを忘れず、湯を汚さないように留意すること。
尚、タオルや石鹸等については、常備していない温泉施設もあるので、持ち歩くことを薦める。

三 湯を堪能すること

入湯修行者は、心を落ち着け入浴すること。選ばれた「名湯」の色、香り、肌触りを充分に堪能すること。飲用可能な湯については、ぜひその味も試し、口から温泉の成分を吸収することにも努めること。

四 お互いの交流

入湯修行者同士では、その道を同じくする者としてお互いに親睦を深めること。お互いの知っている情報の交換にも励むこと。
共同浴場に入る時は、「お宅の浴場にお邪魔します」の礼節の心を忘れず、謙虚な姿勢を貫くこと。

五 感謝の言葉

入湯修行者は、浴場を出る時に番台の方へ厳（おこそ）かに「御湯印帳」を差し出すこと。自らは、修行中の身であるので、御湯印（スタンプ）を押す番台の方へは、「ありがとうございます」といふ感謝の言葉をかけることを忘れないこと。なお、様々な事情にて御湯印をセルフサービスで捺印する入湯施設においては、敬虔なこころにて自ら御湯印帳へ御湯印を押してほしい。

六 湯あたり

入湯修行者は、湯あたりに注意して次の湯へ挑むこと。1日にめぐる温泉の数は自らの身体と相談し、節度を持って修行に励むこと。
適切な入湯は健康を促進するが、無理に沢山入湯すると湯あたりしてしまう。そのような本末転倒はかならず避けること。

九州温泉道 十善戒

九州温泉道における十ヶ条の戒め「十善戒」を左記の通り定める。
この「十善戒」を破る者破門とする。

一 湯を汚さない 薄めない 大地の恵である湯だからこそ、入湯マナーを守り綺麗な湯のまま次の入湯者へ遺すこと。汚れた心身のまま入湯する行為、意味の無い薄め湯行為で湯の効能を弱めることは厳しく慎むこと。どうしようもないくらい熱い湯の時には、他の入湯者に許可を得たうえで謹んで冷たい水を注入すること。

一 湯を盗まない すばらしい湯を持ち帰りたくなる気持ちは良く理解できる。しかし、無許可にて湯の持ち帰りは決して行わない。入湯施設の備品を盗むことは、自分の誠の心を盗むに等しい行為と思うべし。

一 異性をからかわない 入湯施設には混浴温泉も含まれる。混浴温泉に入湯する際には特に行動に注意して、お互いに入りにくいたことが無い様に充分に配慮すること。異性をからかう、ちらりと見るなどの気分を害するような言動のなきやう充分に慎んで、仲良く入湯してほしい。

一 大言を言わない 同じ湯の道を志す者同士、出会ったときに自らの実力を大言にて高く見せることのないように注意すること。嘘の段位を誇っても、その心はむなしくなるばかりである。

一 悪口や陰口を言わない 入湯施設やサービスについて期待外れの事があったとしても、決して悪

口や陰口は控えること。あらゆる経験こそが湯の道の修行であると考えること。過剰に期待した自分を恥じいる謙虚なる心構えこそが、自らを成長させるものである。

一 おごらないこと 段位が高い者も段位におごることが無いよう、常に修行の身であることを意識すること。世の中は広く、どこにも上には上がいるものである。段位が低い者を正しい湯の道へ導くことこそが誠の湯の道と心得ること。

一 ねたまない 自分より上段位の者をねたまないこと。むしろ積極的に仲良くなって、時にはお酒でも一緒に飲んで湯の道の指導をお願いすること。その謙虚さこそが自分の心を育てる道と心得ること。

一 怒らない 少々のトラブルが発生しても、むやみに怒ったり苦情を言ったりインターネットに流したりしないこと。おおらかな心にて楽しむ度量をもつことが重要である。所詮はお楽しみ企画である。

一 無理をしない 食いの心を持たずに身体やお金の具合管理には充分に気をつけること。無理な入湯修行は湯あたり、交通違反、転倒、物忘れ、貯金減少の原因となる。時には入湯修行を忘れご当地の名物を楽しむ気持ちもまた必要なことである。

一 投げ出さない いったん志した湯の道をやすやすとあきらめないこと。湯の道がたづなつた時には湯の殿堂に自分の名前が飾られる日を夢みて更なる修行に励むこと。名湯があふれる九州の湯の道なので、どのようなつらいことも乗り越えられると心得ること。